

協創力による地域活性化

～SDGsの目標 17 パートナーシップの実践～

株式会社伊藤園 常務執行役員
CSR推進部長 笹谷 秀光

〈2018.02.01 CSR-NPO 未来交流会講演より抜粋〉

世の中の動きを私なりのとらえ方の視点で述べます。

SDGsの徹底的な浸透が必要と考えています。今日はその理解に役立つお話をします。

印象 水の日の大野市のポスター

今の世の中の動きの象徴として、水の日に発表した福井県大野市の全面広告ポスターが、強烈なインパクトがありました。「水への恩返し」Carrying Water Project を大野市は立ち上げています。水への再認識を図り水で困った国があれば、応援する主旨です。広告の環境大臣賞も受けています。伊藤園も水に深く関係しているので応援しています。

大野市は大野城を中心にした城下町ですが、町全体が、清水（しょうず）湧水があります。これをみんなで守っています。結の国というのが越前大野のテーマ、大野には「おおの遺産」もあります。条例で、自ら守るものを登録する制度です。これこそが地方のよきものを守る象徴と思われるます。



大野市は水で困っている東ティモールの国への「水への恩返しプロジェクト」を行い、その縁で、オリンピック・パラリンピックの選手受け入れ先のホストタウンにもなりました。バーチャル(水の恵みをレストランにみたくています)水のレストランがあります。水羊羹、団子などをはじめとして、水を徹底的に使ってブランド価値を高めています。

<http://www.carrying-water-project.jp/>

白川郷の「結 (ゆい)」

次に昨年、白川郷に行ってみましたが、かやぶき屋根の協働作業を見ると「結」が生きていると感じます。かやぶき屋根は5年に1回ぐらい吹き替え作業を行い、守っています。今はその作業に、NPO、NGOが参加しています。これも『結』です。日本にはいろいろなところで結の仕組みがいくつもあります。

これを世界標準で、どのようにみなさんにわかりやすく伝えていくのが、いま問われていて、SDGsの17番に「パートナーシップ」があります。パートナーシップの世界的な考えに、「結」の仕組みをどう表現したら良いかが問われています。世界との接点を考えながら、説明していくのが課題になっています。

日本には多くの文化遺産(たとえば富士山、和食、手漉き和紙、祭り、神やどる島・・・)



があり、さらにICTの進化がおきその利用ができるようになりました。日本のいいものクールジャパンをインバウンドにも伝え(2020年までに海外からの訪問者4千万人が来日します)、その日本のいいものをレガシー・仕組みとして残していくのがテーマです。

政策課題も決まっています、「地方創生を元気にする」これは2019年までが第1期、国際都市東京は東京五輪・パラリンピックの2020年まで、これらを合わせて日本創生です。これに向けて、皆様に関連する、水や海、湾という視点からも2020年までに何ができるのか、

その先を見据えて、本日は絶好のタイミングです。

持続可能性を考える原点の確認 フランス モンサンミッシェル

このタイムラインを見据えて、私のグローバル経験の原点にもどり確認してきました。巡礼の地、パリから西に3時間のブルタニュー半島・世界遺産の原点・海に浮かぶ島・モンサンミッシェルを再確認してきました。ヒントが満載でした。

(このストーリーについては次のサイトをご覧ください)

笹谷秀光の「協創力が稼ぐ時代」〈第3回〉

新年に日仏比較から学ぶ

<https://www.g-soumu.com/sasaya/column/2018/01/3.php>

持続可能性の羅針盤 SDGs

持続可能性の羅針盤になるのが、世界中のみんなでいいものは守ろう。持続可能な社会をつくり子孫につなげよう、という持続可能な開発目標（SDGs）です。17 目標からできています。



17 のピクトグラム相互に関連性をもっています。持続可能なまちづくりは目標 11 です。持続可能なまちづくりにはキーワードが二つあります。それはセンス・オブ・プレイス（まちの個性は何か）、もう一つはシビック・プライド（そこに住んでいて良かった、そこ

に参加していて良かった、というメンバーの中でのプライド) がポイントになります。

「産官学金労言+NPO」

これからの関係者連携は産官学だけでは不足で、金融界（ファイナンス）、そして働き方の変革もあり「労働界」、いいことはメディアに発信するための「メディア」そして全体に関わっていく「NPO」の役割です。連携の妙を深める必要があります。これを私はプラットフォームと呼んでいます。



もう一点が三方良しの構造です。「自分よし」、「相手よし」、「世間よし」の構造です。この世間に SDGs を入れていけばいいわけです。



しかし、三方良しには+で「陰徳善事」が日本人にあります。

「若生人にはわかる」「空気を読め」などがそれにあたります。グローバルでは通用しません。今の若い日本人にも通用しません。

顔の見えない日本人では困ります。ですから情報発信が大事になります。NPO 活動も発信が必要です。「発信がないと仲間が増えない」、とするとイノベーションが起きません。これが問題です。そこで私は「発信型の三方良し」にすべきと考えています。

SDGs ジャパンアワード

最近の流れを見ますと2015年にはパリ協定、SDGs ができて、企業の場合、コーポレートガバナンスコードができ、投資家もチェックする ESG が加速しています。

2017.12月にSDGsの第1回ジャパンアワードが発表になりました。企業は4社受賞、2018年はよいよSDGs浸透する元年になりました。

(この点、詳しくは、以下のサイトをご覧ください。)

SDGs 実装元年、ジャパンアワードで伊藤園が特別賞

<http://www.alterna.co.jp/23416>

まとめ

今日の話をもとめますと、まず協働のプラットフォームを作ります。産官学+金労言+NPO、構造をうまく使い、効果的に参加して質の高い学びを持って帰り、共有価値の創造につな



げ、新たな価値を生んで、イノベーションを起こす、そして「三方よし」に繋がっていきます。これをうまく発信する力をつける。この「協創力」が持続可能なまちづくりにつながります。

プロフィール

笹谷秀光 (ささやひでみつ)

日本経営倫理学会理事、グローバルビジネス学会理事、特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム理事、地方創生まちづくりフォーラム「まちてん」2016, 2017 実行委員長、通訳案内士資格保有（仏語・英語）

東京大学法学部卒業。1977年農林省（現農林水産）入省。人事院研修で1981-1983年フランス留学、外務省出向（1987-1990年在米日本大使館一等書記官）。2005年環境省大臣官房審議官、2006年農林水産省大臣官房審議官、2007年関東森林管理局長を経て、2008年退官。同年伊藤園入社、知的財産部長、経営企画部長等を経て2010年-2014年取締役。2014年7月25日より現職。CSR・環境を担当。

著書「CSR 新時代の競争戦略-ISO26000 活用術」（日本評論社・2013年）「協創力が稼ぐ時代—ビジネス思考の日本創生・地方創生」（ウイズワークス社・2015年）

▶facebook

<https://www.facebook.com/hidemitsu.sasaya>

▶Facebook ページ笹谷秀光の「協創」とまちづくり最前線

<https://www.facebook.com/sasaya.machiten/>

▼Facebook ページ「笹谷秀光の『協創』とまちづくり最前線」

<https://www.facebook.com/sasaya.machiten/>

▼月間総務オンラインのオリジナルコラム「協創力が稼ぐ時代」

<https://www.g-soumu.com/sasaya/>